

観光地の再生（第2報）

石 井 廣 志

わが国には、各地に優れた地場の工芸品産業があり、産業的にも、文化的にも地域の資質を支えてきた。

一方、これらの地場の工芸品産業を取り巻く環境の中で、特に近年著しい技術革新の進展、あるいは消費者ニーズの多様化・高度化とこれを要因とする製品の短サイクル化が顕著になってきており、これへの的確な対応を求めた地場の工芸品産業の新たな活性化が模索されている。

このような地場の工芸品産業を抱える地域として越前和紙で知られる福井県今立郡今立町を取り上げ、和紙工芸を柱に観光振興をねらった「和紙の里通り」を中心とする「まちづくり観光」、「産業観光」の可能性について論述している。

方法として、地場工芸産業型の産業振興について一般論に触れ、今立町の観光施設の実態と課題について分析を加えた。それらを踏まえた今立町の観光地として再生する方向性については、2回の現地ヒアリング調査とその中間で実施した地元における意見交換会の諸々の指摘についてKJ法を用いて意見集約を図った。

キーワード：地場工芸、産業観光、まちづくり、越前和紙、和紙の里

はじめに

地方の時代と言われ、地方の自立・自走が大きな課題となつて久しい。地域独自の文化を醸成し、自立に必要な自立できる産業を育成し、個性ある地域づくりが問われている。

自立できる産業とは、本来の地場産業であり、地域に確たる技術・市場をもつ工芸産業がその一つといえる。工芸産業は、原材料の供給・技術の蓄積等、地元をベースにしつつも、製品の質・個性からして、より広汎な市場への可能性を持っており、地方の自立・自走を支える有力な産業といえる。

地場の工芸品は、実用性・耐久性を兼ね備えた美しさを持ち、使い捨ての工業製品と異なり、手づくりの温もりを伝え、生活に潤いを与えてくれ

る。また、良い品物に日常的に接することにより、審美眼を養うとともに、地域文化の豊潤化にもつながるものである。

中でも伝統的な地場工芸は、地域に歴史的、文化的な背景をもつ代表的な地場産業の一つである。その特徴として、伝統的な生産・流通体系をもち、多くの場合、原材料の確保・調達から製品の製造、販売まで広い範囲にわたって地域とのかかわりをもっている。その関わりは所得の確保、雇用機会の提供といった経済的側面ばかりでなく地域住民の生活環境や行動様式あるいは当該地域の文化とも密接なつながりをもっている。しかしながら、これらの伝統的な地場工芸を支える企業の多くは零細的、生業的な中小企業であり、このため生産性の向上をいかにして図るかが地域経済社会の活性化の大きな課題となっている。

例えば、福井県の嶺北（歴史的には越前・若狭

と分けると越前）地方にあり、平成17年10月に隣接する旧武生市との合併で越前市となった旧今立町（以下本稿では「今立町」とする。）は、越前和紙産地を形成している。今立町にとって製紙業の地位は高く、越前漆器も町内でつくられており、合併した旧武生市の越前打刃物産地、同じく隣接する鯖江市の越前漆器（河和田漆器）産地、旧武生市と隣接する越前町（平成17年2月に丹生郡朝日町、宮崎村、越前町、織田町の4町が合併して誕生）の越前焼（織田焼）産地を加えると、広汎な一大工芸産業空間を構成している。今立町は、全国有数の和紙産地であり、手漉き和紙では全国一のシェアを誇っている。

和紙・和紙加工業が今後とも今立町のリーディング産業として発展していくためには、素材と加工との連携を強化し、技術の継承や新製品の開発による需要の確保や観光など関連産業の育成振興による新しい産業集積の形成と合わせて地域住民の居住環境の整備を推進していくことが必要となっている。

そのため、今立町は『いまだて21世紀ビジョン（第4次今立町総合計画）』の中で「新しい風おこしプログラム」として、産業振興については、次の7つの産業イノベーション・意識プログラムが示されている。

- ①生活文化創造型産業団地の推進
- ②デザインマインドを持った地域産業の展開
- ③産業・流通イノベーションの推進
- ④いまだて地場産工場の創出
- ⑤商店街の再活性化戦略
- ⑥今立型農林業の展開と担い手育成
- ⑦特産品流通・販売体制の変革

本稿は、観光による地域振興に取り組む地域の要望に対して、観光に関する適切な助言を行うことを目的として、観光カリスマ等（観光地域づくりを専門とする学識経験者等）を観光地域づくりアドバイザーとして派遣し、観光振興、雇用の創出等を図ることを目的に、（社）日本観光協会が実施した「観光カリスマ・アドバイザー派遣制度」に協力した内容について紹介するものである。即ち、今立町産業振興課からの要望に基づき、和紙の里へのアドバイス、助言を行ったものである。

以下にその内容を紹介する。

1. 地場工芸産業型の産業振興について

ここで、今立町のような地場の工芸産業を中核として地域づくりを目指す、すなわち地場工芸産業型の地域振興と呼べるものについて、その基本的方向と特性、果たすべき基本的機能、基本的方策、期待される効果についてあらかじめ整理すると、次のようになる。

（1）基本的方向と特性

1) 基本的方向

地元に優れた工芸品産業があることは、端的に言えばその地域の経済・社会・文化の高さを示している。優れた工芸品が生まれてきた過程そのものをみると、人為的な英知、技術の成熟度と工芸品の経済・社会・文化的水準は比例しており、今後においても、その関係は成立しよう。

そこで、基本的方向は次のように設定される。

- ①工芸業の存在が地域にとって、少なからぬ地域経済効果をもたらすべく、地域所得効果、雇用効果（定住効果）、他産業への波及効果等幅広い経済効果を持たせる。
- ②工芸業の存在が地域社会や住民生活の潤い、豊かさへのプラス効果につながり、それがまた優れた工芸品を生むといった好循環系を持たせる。
- ③工芸業を核とした個性豊かな地域づくりを目指すもので、単なるハードな工場・工房だけでなく、個性ある生活文化の構築も含める。

2) 特性

地場の工芸産業は自立できる産業というだけではなく、その高付加価値ゆえに経済効果を持っているし、雇用力も持っている。また、地域文化への寄与という点でも、工芸産業の存在は大きな意味を持っている。優れた工芸品を生活に取り込むことは、とりもなおさず個性ある文化の体験であり、それが容易な地域は独自の生活を醸成していくことになる。地元に優れた工芸産業があり、自らの生活スタイルにマッチした品物も注文できるということは、同じ工芸品を使うにも一味違った生活文化を可能にする。それが地域のアイデン

ティティに、個性ある地域づくりにつながっていく。

そこで目指すものとしては、地域経済の活性化とともに、地域社会の維持をも射程に据えたものである。

①地域経済の活性化

地域経済効果としての地域所得の向上，雇用効果の創出，他産業への波及的産業連関効果。

②地域社会の維持

地域社会効果として、工芸を通じて住民生活の潤いや豊かさ，工芸をからめた地域独自の社会福祉や社会教育の充実効果，工芸業の存在が直接・間接にもたらす都市形成・環境形成の波及効果。

(2) 果たすべき基本的機能

ねらいとするところは、工芸業を地場産業としてとらえ、その構造に合わせた産業として発展施策を講じようとするものである。

①商品開発・技術開発

素材および製品の技術的研究や、品質の安定化などに充分検討を加え、新しい個性豊かな製品を開発する。

②販路拡大・流通改善

従来の流通経路の特性を生かすとともに、新たな製品の販路としての差別化を図る。

③人材の育成

既存のデザイナー、技術者の再活性化を図るとともに、新たな人材資源の育成も図る。

④情報化

既存の企業の組織化に生かすとともに、素材→加工→流通までも含めた産業連関情報化を図る。

⑤消費者への啓蒙・PR

工芸業の持つ文化性を通じて、消費者とのパイプを太くするとともに、消費者を情報源として活用する等の双方向性を持たせる。

(3) 基本的方向

工芸業の方策および推進体制としては、伝統的技術の継承と新技術・新製品開発をも目指し、目的、機能、施設という関連で整理を行うと次のようになる（表1）。

表1 目的・機能・施設

目的	機能	施設
情報化	・工芸博物館 (資料収集・展示) ・工芸情報収集・作成・閲覧 ・市場情報収集・提供 ・各種展示会の開催	・工芸博物館
商品開発 技術開発	・素材、製品の技術的研究・試験・検査 ・新しい技術・製品の開発	・工房 ・工芸学校
人材の育成	・デザイナー及び技術者の育成 ・住民工芸教室の開催	・公立工芸高校 ・工芸大学
消費者への啓蒙・PR	・製品の常設展示・販売 ・工房での制作閲覧 ・催し物の開催 ・素材の育成及びPR	・工芸サロン ・催し物広場 ・工芸の森 ・工芸の里 ・素材公園
販路拡大・流通改善	・販路幹旋	・クラフトベ ンション

(4) 期待される効果

1) 産業へのインパクト

産業へのインパクトは、既存工芸業そのものへと、産業化ポテンシャルの向上として捉えられる。

①既存工芸業

○経営の高度化：既存工芸業の生産性の向上と経営体質の強化

○商品開発機能の充実：既存工芸業の新たな事業展開

○人材の育成：既存工芸業の再生産力としての人材の育成

○情報化の推進：素材→加工→販売（市場）を通じた情報化

○流通機能の強化：製品の多様化を通し、流通機

能に幅が生まれる。

②産業化ポテンシャル

○産業の多様化：既存工芸業とのリンクによる新たな事業分野が生まれる。→例えば産業観光の推進による観光産業の発展。

○産業基盤の強化：生活、文化の向上により、良質で多様な労働力の確保が可能となる。

○立地条件の改善：技術ポテンシャルの強化が新たな産業立地を促す。

○他産業への波及効果：既存工芸業の存在が域外の人を惹きつけ、観光業への直接的な効果や技術蓄積を通じた他産業への間接効果を生ずる。

2) 地域へのインパクト

地域へのインパクトは、社会面、教育・文化面で捉えられる。

①社会面

○人口定着：所得の発生源（就業の場）が確保され、人口が定着する。

○生活水準の向上：雇用機会の増加に伴う所得の増加により生活水準が向上する。

②教育・文化面

○教育機関の充実：工芸産業への関心が高まるとともに、教育機関の充実が図られる。

○文化水準の向上：住民の工芸業への関心が高まり、工芸業と住民生活を結びつけた形で、独特の文化圏が形成される。

○都市形成・景観：工房の存在、工芸関連の店舗の存在等が地域の潤い、たたずまいに与える直接的・間接的な影響効果。

2. 福井県今立町における事例研究

(1) 地域概要（福井県今立郡今立町）

和紙の里として全国的に知られる今立町は、豊かな緑と自然に恵まれた風光明媚なところである。地理的には福井県のほぼ中央に位置し、南と西は旧武生市、北と西は鯖江市、東は池田町に隣接している（図1）。武生盆地に含まれる地区と、その周辺を取り巻く山間部に分かれ、東西10 km、南北6.5 km、面積45.43 km²を町域とし、その70%が山林である。緑豊かな山あいの自然環境にめぐまれたこの町には、鞍谷、岡本、月尾、水間、服

部の5つの川が流れ、それぞれ鞍谷川と合流したのち、日野川、九頭竜川と名を変え日本海に注いでいる。気温は高温多湿、冬は降雪量が多く、年間平均気温は16.7℃である。

町内を国道417号はじめ県道、幹線道路などが複合的に走り、隣接市町村と結んでいる。北陸自動車道にも近く、中京・近畿圏との短時間の往来も可能な立地である。平成13年の人口は14,216人、世帯数は3,659世帯である。



図1 今立町の位置

(2) 今立町訪問および情報収集のためのヒアリング調査の実施

第一回の現地訪問では、町内の視察および第一回ヒアリング調査により、和紙の里通りの運営形態の説明を受ける（表2）とともに、地元の商店主や運営を任せている財団法人伊万太千（いまたち）の職員、町の職員など20名あまりの出席による意見交換会を実施した（表3）。

表2 第一回ヒアリング協力者（敬称略）

団体名	ヒアリング協力者	
(財)伊万太千	事務局長	松ヶ谷良紀
杉原商店	専務	杉原吉直
和紙の里会館	館長	加藤良夫

表3 意見交換会参加者（敬称略）

団体名	意見交換会参加者
和紙の里を愛する会	喫茶カリン、清水和紙、茶コール、和紙の店「梅田」、ギャラリーコスモス、あみだそば、刺繍レースの吉田
福井県和紙工業協同組合	和紙ショップ販売員（和紙組合所属） 瀧ヶ花
（財）伊万太千	松ヶ谷局長、川崎局長補佐、加藤館長 水野、岡田、山田房江、佐々木
越前屋梅衛門	岩堀雅巳
福井県観光振興課	山田企画主査
今立町産業振興課	佐々木課長、渡辺参事、國久主査

第二回の現地訪問は、こちらからのお願いでヒアリング調査を実施したもので、7団体9名を対象に実施した（表4）。

表4 第二回ヒアリング調査の協力者（敬称略）

団体名	ヒアリング協力者
今立町商工会	事務局長 真柄展和
今立町教育委員会	教育長 藤下洗養 岡太小学校校長 藤本 茂 元教育長（元和紙の里会館館長） 川崎 博
和紙の里会館	館長 加藤良夫
有機農法研究会	副会長（元役場職員で専業農家） 平澤一広
パピルス館	和紙ショップ販売員（和紙組合所属） 瀧ヶ花
福井県和紙工業協同組合	事務局長 山崎信之
清水和紙株式会社	代表取締役 清水英二

第三回の現地訪問は、第一回の現地訪問で実施した意見交換会のメンバーにお集まりいただき、報告会を実施した。

（3）今立町の観光の実態と問題点・課題

ここでは、今立町の観光の実態と問題点・課題について、観光施設を中心に検討を加える。

表5は青木史郎、黒田宏治両氏によって「芸術工学会誌No.21, 189-192, 1999年」に紹介された「地域デザイン方法論の試みー地域デザインシナリオの提案」の中で成功要因による事例評価として提案された6項目23要因とそれによる評価について示したものである。本来は、まちづくり全体や自治体あげでのハード整備やソフトな活動を評価するのに採用されており、この表では、福井県武生市「タケフナイフビレッジ」、滋賀県長浜市「黒壁スクエア」、三重県伊勢市「おはらい町通り再開発」、島根県吉田村「鉄の歴史館」、岐阜県明智町「日本大正村」、山形県長井市「市民デザイン活動」、宮崎県綾町「まちづくり」の事例について評価している。ここで提案されている6項目23要因については、私も宮崎県高千穂町の「夜神楽」について実際に採用したことがあり、その有効性は評価できるものである。

1) 観光施設個々の評価

表6では、今立町の観光施設として、和紙の里会館、パピルス館、卯立の工芸館の3つの施設とこれら主要な施設で成り立っている和紙の里通りに加え、小次郎公園、いまだて芸術館の6つについて評価してみた。●印が成功要因として評価されるものであり、卯立の工芸館と総体としての和紙の里通りはいずれも6項目のどこかに●印がつき、うち5項目のどこかに2つ以上の●印がつく。小次郎公園といまだて芸術館はいずれも6項目のどこかに●印がつき、うち4項目のどこかに2つ以上の●印がつく。これに対し、和紙の里会館とパピルス館では6項目のどこかに●印のつかないところがあり、●印がついても一つか二つである。

この手法は、本来まちづくり全体や自治体あげでのハード整備やソフトな活動を評価するものであり、和紙の里通りについてはそのまま評価でき

表5 成功要因による事例評価（8事例）

成功要因	福井県 武生市 タケフナイフ ビレッジ	滋賀県 長浜市 黒壁スクエア	三重県 伊勢市 おはらい町通り 再開発	島根県 吉田村 鉄の歴史村	岐阜県 明智町 日本大正村	山形県 長井市 市民デザイン 活動	宮崎県 綾町 まちづくり	(参考) 宮崎県 高千穂町 夜神楽
○基本的な要因	● ● ●	● ●	● ● ●	● ● ●	●	●	● ● ●	● ●
○着眼点、着想力	● ● ●	● ●	● ●	● ●	●	● ●	● ● ●	● ● ●
○企画力、構想力	●	● ● ●	● ● ●	●	● ●	●	● ●	● ●
○プロデュース力	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ●	●	●	● ● ●	● ● ●
○実施力	● ●	● ● ●	● ●	●	●		● ●	● ●
○継続力	● ● ● ●	● ● ● ● ●	● ●	● ● ●	● ● ●	● ●	● ● ● ●	● ● ● ●

(注) 各事例について、●は成功要因として評価されるもの

(出所) 青木史郎、黒田宏治「地域デザイン方法論の試みー地域デザインシナリオの提案」芸術工学会誌No.21、189-192、1999年より作成しました（表形式の変更と一部県名市町村名の追加並びに宮崎県高千穂町夜神楽の追加）。

るとしても、個々の施設の評価にはなじまない点があり、そのような限界を考慮する必要があるという条件付きである。すなわち、個々の施設の組み合わせ効果について評価しきれていない点がある。たとえば和紙の里会館とパピルス館と卯立の工芸館は同じ和紙の里通りにあり、これら主要な施設で成り立っている和紙の里通りについては、その組み合わせ効果について評価しているが、小次郎公園やいまだて芸術館の訪問は目的がはっきりしている。実はこのことが、今立町の観光の一つの問題点でもあるのだが、そのことについては後に述べる。

このような条件付きであるが、この表からいくつかの指摘ができる。卯立の工芸館の評価は最も高く、⑥継続力については4つの●印がつき、ただ「経済的成功」と「地域全体を巻き込む仕掛け」の点で●印がつかない。①基本的な要因、②着眼点、着想力、③企画力、構想力、④プロデュース力の4項目についてはいずれも2つの●印がつ

く。①基本的な要因については「問題意識の共有」、②着眼点、着想力については『「物語」化（ストーリーの組立）』、③企画力、構想力については「フィージビリティ・スタディ」、④プロデュース力については「指導力・調整力（しきり、しわけ）」、「実現力（費用負担のしくみなど）」の点で今後の課題として残ろう。⑤実施力のうち「提供されるモノ・コトの質」は江戸時代中期の紙漉き屋敷を移築・復元した施設、館内における古式にのっとった紙漉きの道具と方式で伝統工芸士が実際に紙を漉く工程を見学できるなど第一級のものである。今後は「マーケティング力」、「情報操作力（地域外への発信力）」、「事業マネジメント力」の点でまだ新しい施設だけに課題を残していると感じられる。また、前述したように⑥継続力のうち「経済的成功」と「地域全体を巻き込む仕掛け」の点で、これもまだ施設が新しいだけに今後の課題として残ろう。しかし、多くの点で成功要因をクリアーしていることは注目される。

いまだて芸術館の評価も高く、⑥継続力については卯立の工芸館同様4つの●印がつき、ただ「経済的成功」と「地域全体を巻き込む仕掛け」の点で●印がつかない。①基本的な要因、②着眼点、着想力、⑤実施力の3項目についてはいずれも2つの●印がつく。①基本的な要因のうち「問題意識の共有」の点で、②着眼点、着想力のうち独立した建物のため『「物語」化(ストーリーの組立)』を難しくしており、⑤実施力のうち「提供されるモノ・コトの質」は第一級のものであり、「情報操作力(地域外への発信力)」も高い。反面「マーケティング力」と「事業マネジメント力」の点で町民のための文化施設だけに課題を残していると感じられる。

③企画力、構想力のうち設立のきっかけが『自分たちが作った芸術作品の発表・展示する所が欲しい』、『優れた文化に触れる機会を増やしたい』、『あのIMADATE展(町民総参加の手作りイベント)で話題となった和紙を素材とした手作りの作品を保存して欲しい』などの町の声であり、「活動・事業コンセプト」の点で評価できる。町の総合計画の中にも【町民の文化活動の活性化に対応する】方針を定めている今立町では、この声に応えて、多目的な機能を持つ施設の建設に踏み切ったものである。IMADATE展は、今立を代表するイベント「今立現代美術紙展」に変わり、最近では、いまだて美術館を飛び出し「今立アートフィールド」というプロジェクトに発展している。また、今立在住の小・中学生で構成する児童劇団「ステラ座」の活動拠点ともなっている。しかし、フル活用とまではいかず、「活動・事業の展開シナリオ」と「フィージビリティ・スタディ」の点で課題を残している。

この「いまだて芸術館」は、クラシックコンサートから演劇、講演会まで幅広いジャンルに対応できる600人収容のホール、吹き抜けのエントランス、ドーム型の作品展示室を備えた、まさに町民文化の拠点である。国内外から芸術家を招いてのイベントにも十分対応できるよう、音響効果や特殊設備に力をいれている。また、地域の住民に気軽に利用してもらうために、ステージ脇には簡易操作盤も設置されている。

したがって、④プロデュース力のうち「わかりやすい目鼻・かたちの提示」の点では評価できる。しかし、「指導力・調整力(しきり、しわけ)」、「実現力(費用負担のしきみなど)」、「時間・タイミングの判断」の点で今後の課題として残ろう。また、前述したように⑥継続力のうち「経済的成功」と「地域全体を巻き込む仕掛け」の点で、これもまたフル活用されていないだけに今後の課題として残ろう。しかし、多くの点で成功要因をクリアしていることは注目される。

小次郎公園の評価も比較的高く、⑥継続力については3つの●印がつき、ただ「経済的成功」、「地域内外ネットワーク」、「地域全体を巻き込む仕掛け」の点で●印がつかない。①基本的な要因、②着眼点、着想力、⑤実施力の3項目についてはいまだて芸術館同様いずれも2つの●印がつく。①基本的な要因のうち「問題意識の共有」の点で、②着眼点、着想力のうち独立した公園のため『「物語」化(ストーリーの組立)』を難しくしており、⑤実施力のうち「提供されるモノ・コトの質」は佐々木小次郎の生家である町内北坂下の高善寺(17代住職の六男として生まれ、その後、仏門を嫌い剣術家になったことは、寺の過去帳に記されている。)に隣接して造成されたのが「小次郎公園」で興味をそそられる。長身の美剣士、そして通称「物干し竿」とよばれた長刀をふりまわす「つばめ返し」の使い手として有名であるだけに「情報操作力(地域外への発信力)」も高い。反面「マーケティング力」と「事業マネジメント力」の点で町の中心から離れているだけに課題を残していると感じられる。

園内には、愛刀「物干し竿」を今にも抜かんとする小次郎の像をシンボルに、池、滝、遊歩道、石舞台を配し、日本情緒あふれる空間が形成されており、③企画力、構想力のうち「活動・事業コンセプト」の点で評価できる。しかし、NHKの大河ドラマ「武蔵」で一時注目されたが、今後の「活動・事業の展開シナリオ」と「フィージビリティ・スタディ」の点で課題を残している。

また、④プロデュース力のうち「わかりやすい目鼻・かたちの提示」の点では評価できる。しかし、「指導力・調整力(しきり、しわけ)」、「実現

力（費用負担のしくみなど）」、「時間・タイミングの判断」の点で今後の課題として残ろう。また、前述したように⑥継続力のうち「経済的成功」、「地域内外ネットワーク」、「地域全体を巻き込む仕掛け」の点も今後の課題として残ろう。しかし、比較的多くの点で成功要因をクリアーしていることは注目される。

これに対し、和紙の里会館とパピルス館は、①基本的な要因こそ●印が2つつくものの、和紙の里会館では⑤実施力、パピルス館では②着眼点、着想力については●印が全くつかない。また、和紙の里会館では、②着眼点、着想力、③企画力、構想力、④プロデュース力、⑥継続力についても評価できる点は少ない。パピルス館でも③企画力、構想力、④プロデュース力、⑤実施力、⑥継続力についても評価できる点は少ない。

すなわち、和紙の里会館もパピルス館も①基本的な要因のうち「地元有志の熱意」と「キーパー

スの存在」については『和紙の里を愛する会』や重要無形文化財保持者（人間国宝）岩野市兵衛氏の作品や紹介をはじめ評価できるものの、「問題意識の共有」の点で町民全体として共有しているかという課題が残る。そして、和紙の里会館もパピルス館も③企画力、構想力のうち「活動・事業コンセプト」、④プロデュース力のうち「わかりやすい目鼻・かたちの提示」、⑥継続力のうち「公的な助成、自治体の支援など」の点で評価できるものの、それ以外評価できるものはない。また、和紙の里会館では②着眼点、着想力のうち「地域の資産（ソフト、ハード）」、パピルス館では⑤実施力のうち「マーケティング力」の点で評価できるものの、それ以外評価出来るものはない。前述したように、和紙の里会館では⑤実施力、パピルス館では②着眼点、着想力については評価できるものが全くない。

表6 今立町観光施設評価表

成功要因	和紙の里会館	パピルス館	卯立の工芸館	和紙の里通り	小次郎公園	いまだて芸術館	今立町の観光施設実態	今立町の観光施設の課題
観光施設	越前和紙の歴史や制作工程・和紙をめぐる人間の営みなどをパネルや資料・和紙人形等を展示。世界一大きな和紙から名刺・紙幣等、越前和紙に触れられる	紙漉きを実際に行える体験型施設をはじめビデオや指導員のサポートで、誰でも自分だけの和紙を作ることができる。また和紙製品の販売コーナーも併設	江戸中期の紙漉き屋敷を移築・復元（玄關上に卯立）したもの。館内では古式でのつと紙漉き道具と方式で伝統工芸士が実際に紙を漉く工程が見学できる	今立町のシンボルロードとして整備され、和紙の里会館、卯立の工芸館、パピルス館を結ぶ全長200mの通りで、和紙関連施設が集中するエリアである。	悲運の剣豪・佐々木小次郎の生家といわれる高善寺に隣接する公園。小次郎の像や庭園、桜の苑等、情緒豊かな空間がつくられ、のんびり散策できる。	クラシックコンサートから演劇、講演会まで幅広い利用に対応できる600人収容のホール吹き抜けのエントランス、ドーム型の作品展示室を備える。		
○基本的な要因 ・問題意識の共有 ・地元有志の熱意 ・キーパースンの存在	●	●	●	●	●	●	●	●
○着眼点、着想力 ・地域の資産（ソフト、ハード） ・資産の今日的評価（組み合わせ、編集） ・「物語」化（ストーリーの組立）	●		●	●	●	●	◎ △	△ ●
○企画力、構想力 ・活動、事業コンセプト ・活動、事業の展開シナリオ ・フィージビリティ・スタディ	●	●	●	●	●	●	●	○ ●
○プロデュース力 ・指導力、調整力（しきり、しわけ） ・実現力（費用負担のしくみなど） ・時間、タイミングの判断 ・わかりやすい目鼻、かたちの提示	●	●	●	●	●	●	●	● ● ○
○実施力 ・マーケティング力 ・提供されるモノ・コトの質 ・情報操作力（地域外への発信力） ・事業マネージメント力		●	●	●	●	●	○ △	◎ △ ●
○継続力 ・経済的成功 ・「優れたかたち」「ハード」の提供 ・シンパサイザーの共感、共鳴 ・地域内外ネットワーク ・地域全体を巻き込む仕掛け ・公的な助成、自治体の支援など	●	●	●	●	●	●	○ ○	● ○ ●

（注1）今立町の観光施設について●：成功要因として評価されるもの

（注2）今立町の観光施設実態について成功要因として評価が★：非常に高い、◎：高い、○：やや高い、△：どちらともいえない

（注3）今立町の観光施設の課題について成功要因からみると評価が★：非常に低い、◎：低い、○：やや低い、△：どちらともいえない

2) 和紙の里通りの評価

それでは、卯立の工芸館、和紙の里会館、パピルス館を主要施設とする和紙の里通りについて総合的に見てみよう。これら3施設の評価の単純合計としてではなく、他の商業施設（和紙販売店、飲食店）やサービス施設（ギャラリー等）を含めた街並みとして、表5のまちづくり全体や自治体あげてのハード整備やソフトな活動としての評価をしてみる。総体としての和紙の里通りはいずれも6項目のどこかに●印がつき、うち5項目のどこかに2つ以上の●印がつく。すなわち、①基本的な要因のうち「地元有志の熱意」と「キーパースンの存在」については『和紙の里を愛する会』、『そば愛好会』、産地組合（福井県和紙工業協同組合）、今立町商工会、重要無形文化財保持者（人間国宝）岩野市兵衛氏をはじめ伝統工芸士の方々の存在など十分に評価できるものの、「問題意識の共有」の点で町民全体として問題意識を共有しているかという課題が残る。③企画力、構想力については「活動・事業コンセプト」と「活動・事業の展開シナリオ」については評価できるが、総合的な「フィージビリティ・スタディ」をする必要がある。④プロデュース力については「時間、タイミングの判断」と「わかりやすい目鼻・かたちの提示」については評価できるが、「指導力・調整力（しきり、しわけ）」、「実現力（費用負担のしくみなど）」については課題がある。⑤実施力については「提供されるモノ・コトの質」と「情報操作力（地域外への発信力）」については評価できる。反面、「マーケティング力」と「事業マネジメント力」の点で課題を残していると感じられる。⑥継続力については『「優れたかたち」「ハード」の提供』、「シンパサイザーの共感、共鳴」、「公的な助成、自治体の支援など」の点について評価できる。一方、「経済的成功」、「地域内外ネットワーク」、「地域全体を巻き込む仕掛け」の点で今後の課題として残ろう。しかし、②着眼点、着想力については「地域の資産（ソフト、ハード）」の点では評価に値するが、「資産の今日的評価（組み合わせ、編集）」の再考の必要性和『「物語」化（ストーリーの組立）』をもう一度見直す時期に来ているとみられる。しかし、比較的多くの点で

成功要因をクリアーしていることは今後に期待できそうである。

3) 今立町の観光施設の実態と課題

そこで、これらの6施設の評価の単純合計で今立町の観光施設の実態について評価を加えると、表の右から2番目の評価となる。これによれば、今立町の観光施設の実態は、主要な6施設を取り上げると、①基本的な要因、③企画力、構想力、④プロデュース力、⑥継続力については高く評価できる点もあるが、②着眼点、着想力、⑤実施力については、今後に課題があることがわかる。もう少し詳細にみると、①基本的な要因のうち「地元有志の熱意」と「キーパースンの存在」の点、②着眼点、着想力のうち「地域の資産（ソフト、ハード）」の点、③企画力、構想力のうち「活動、事業コンセプト」の点、④プロデュース力のうち「わかりやすい目鼻、かたちの提示」の点、⑤実施力のうち「提供されるモノ・コトの質」の点、⑥継続力のうち、『「優れたかたち」「ハード」の提供』、「シンパサイザーの共感、共鳴」、「公的な助成、自治体の支援など」の点について評価が高い。特に①基本的な要因のうち「地元有志の熱意」と「キーパースンの存在」の点、③企画力、構想力のうち「活動、事業コンセプト」の点、④プロデュース力のうち「わかりやすい目鼻、かたちの提示」の点、⑥継続力のうち、「公的な助成、自治体の支援など」の点については最も高く評価できる。このような今立町の観光施設の実態から浮かび上がってくる課題として、表の右端に示したような問題提起ができる。すなわち、観光施設の実態を裏返してみるなら、いくつかの課題が指摘できる。

すなわち、

- ①基本的な要因については「問題意識の共有」
- ②着眼点については『「物語」化（ストーリーの組立）』
- ③企画力、構想力については「活動、事業の展開シナリオ」と「フィージビリティ・スタディ」
- ④プロデュース力については「指導力、調整力（しきり、しわけ）」と「実現力（費用分担

- のしくみなど)」と「時間、タイミングの判断」
 ⑤実施力については「マーケティング力」と「事業マネジメント力」
 ⑥継続力については「経済的成功」と「地域内外ネットワーク」と「地域全体を巻き込む仕掛け」

が今後の課題として提起される。

中でも、①基本的な要因のうち「問題意識の共有」、②着眼点のうち『「物語」化（ストーリーの組立）』、③企画力、構想力のうち「フィージビリティ・スタディ」④プロデュース力のうち「指導力、調整力（しきり、しわけ）」と「実現力（費用分担のしくみなど）」、⑤実施力のうち「事業マネジメント力」、⑥継続力のうち「経済的成功」と「地域全体を巻き込む仕掛け」が大きな課題である。

（4）問題解決・課題対応のための基本的考え方

1）全体として

（2）でみたように、今立町は和紙の里通りを中心とした産業観光地として評価され注目を集めてきたものの、その他の観光施設も含め、多くの問題点・課題を抱えている。したがって、このような問題点・課題を踏まえ、新たな観光振興の方向について、問題解決・課題対応のための基本的な考え方について、いくつかの提言をすることにした。

第一回の現地調査でのお話や実施した意見交換会、第一回、第二回の現地訪問で実施したヒアリング調査をもとに、そして入手した文献・資料、今立町誌を参考にしつつ、思い浮かんだ問題点・課題とその対応策・アイデア等を書き留め、研究ノートを作成した。

この研究ノートから、書き出した実態と問題点・課題、問題解決・課題対応に対する意見、アイデアは240項目に及んだ。これら240項目を問題解決・課題対応の視点から、意見・提案・アイデアとして全て取り上げ、KJ発想法によって整理し、基本的な方向について論点を整理してみた（表7～表15）。

これによれば、基本的な方向について、次の13の論点が明らかになった。

- ①和紙を柱とした今立町は質の高い産業文化圏として注目され、町づくり町民大学の設置により産業生活文化環境の再生産を図りたい（表7）。
- ②観光客の立場に立った産業観光化とは、今立町の生業（なりわい）・営為（いとなみ）の中に都会人を受け入れるもので、発想の原点は「東京いまだて物語」にある（表8上段）。
- ③産業観光を目指す和紙の里構想と今立町の農業の再評価となるグリーンツーリズムを結びつけ、相互に活路を開く（表8中段）。
- ④観光消費にも個性化・高級化が進んでおり、個人・家族・サークルや外国人を射程にした産業観光を目指したい（表8下段）。
- ⑤越前工芸4産地が結束し、共通の目標である工芸産業観光地化を図り、県外客を中心とした宿泊型の観光地を目指す（表9）。
- ⑥和紙を知る高齢者を観光対象として、お年寄りに優しい観光地づくりを目指すのも産業観光の道である（表10上段）。
- ⑦観光地の魅力として食の占める位置は高く、和紙の里にふさわしく食の安全にも配慮した地元食材主体の料理を提供する（表10下段）。
- ⑧全国の和紙産地の頂点を目指し、原材料・技術・製品開発・販売等の面で他産地にない取り組みをするべきである（表11）。
- ⑨和紙製品の多様な展開には、衣食住のデザイン展やファッション展に参加している問屋や研究開発型企業の取り組みが欠かせない（表12上段）。
- ⑩和紙組合の取組みとして、全国和紙産地の先駆けとなる消費者対策や県内での地場製品の普及を図りたい（表12下段）。
- ⑪和紙の里通りの街並み整備は未完成で、和紙を通した工芸文化の発信や魅力的な施設の紹介に改善の余地がある（表13）。
- ⑫和紙の里通りそのものが博物館であり、今立町全体が生活文化博物館であるエコミュージアムの発想が必要である（表14）。
- ⑬和紙の里通りのイベントは、個々の施設を最大限活用し、人々の生活文化の中で息づいてきた和紙をテーマに未来を模索したい（表15）。

2) 各論点について

表7によれば、①についてポイントは二つあり、一つは和紙を柱に自然・歴史・文化環境の質の高さを誇りとして、越前和紙の伝統・文化環境を将来につなげていくための新たな産業文化圏の構築を図ることである。つまり、和紙を柱に自然・歴史・文化環境の特異性を売る必要がある。越前和紙の伝統技術をトータルに訴える必要がある。具体的には、謡曲「花筐」をはじめ水上文学、いまだて芸術館など文化的に質の高い歴史・文化・芸術は今立町の財産であり、和紙・羽二重・漆器を組み合わせた奉納舞の創作のアイデアもある。も

う一つは町づくりのソフトな仕掛けとして、行政と地域経済団体、町民が参加する町づくり町民大学をつくり、町民の結束による町おこしを実践することである。つまり、今立町商工会は行政と産業界、町民を結ぶパイプ役として期待され、産業人の発想で町づくりに貢献して欲しいという声があり、役場と町民とのパイプができれば、それぞれに力を発揮できるという意見もある。具体的には、「和紙の里を愛する会」や「そば愛好会」などを母体とした町民大学をつくり町民の結束による町おこしを実践しようという意気込みを尊重したい。

表7 論点①

第1回懇談会およびヒアリング調査による意見	第1段階の集約	第2段階の集約	ポイント(第3段階の集約)	論点(第4段階の集約)
・今立町の振興は和紙を柱にする。 ・歴史・文化的背景の質の高さを誇りとして、越前和紙の伝統・文化環境を将来につなげていくための新たな産業文化圏の構築を図ることである。 ・和紙にとって大切な水の活かし方。	○和紙を柱に、自然・歴史・文化環境の特異性を売る。	●和紙を柱に自然・歴史・文化環境の質の高さを誇りとして、越前和紙の伝統・文化環境をトータルに訴える必要がある。	☆和紙を柱に自然・歴史・文化環境の質の高さを誇りとして、越前和紙の伝統・文化環境を将来につなげていくための新たな産業文化圏の構築を図る。	①和紙を柱とした今立町は質の高い産業文化圏として注目され、町づくり町民大学の設置により、産業生活文化環境の再生産を図りたい。
・人間国宝の輩出。 ・伝統工芸士が紙を漙っている。 ・紙漙きの環境も貴重。	○越前和紙の伝統・技術環境は超一級である。	●謡曲「花筐」をはじめ、水上(勉)文学・いまだて芸術館などの文化的に質の高い歴史・文化・芸術は今立町の財産である。		
・水上勉「弥次と十兵衛」を訪ねるコースをつくる。 ・水上勉記念館を花筐公園内に設ける。	○水上(勉)文学と今立町とのつながりを形にしたい。			
・文化的に質の高い施設としてのいまだて芸術館の活用。				
・羽二重発祥の地。 ・羽二重も漆器も継体天皇に関係する。 ・紙能舞・奉納舞の文化性。	○和紙・羽二重・漆器を組み合わせた奉納舞を創作する。			
・和紙の里通りのイベントへ商工会として参加。 ・商工会婦人部(206名)の活用。 ・商工会青年部(34名)の活用。	○和紙の里通りのイベントでは商工会婦人部・青年部が活動している。	●今立町商工会は行政と産業界、町民を結ぶパイプ役として期待され、産業人の発想で町づくりに貢献して欲しい。	☆町づくりのソフトな仕掛けとして、行政と地域経済団体、町民が参加する町づくり町民大学をつくり、町民の結束による町おこしを実践する。	
・商工会の組織率(80%)は高い。 ・平成8,9,10年にむらおこし事業を実施。 ・商工会の事業として小次郎グッズに取り組む。	○商工会は組織率も高く、むらおこし事業も取り組んでいる。			
・商工会の会員の中に洋菓子店が福井市に出店している。				
・和紙の里を愛する会の発展。 ・そば愛好会の活動に注目。 ・和紙の里再生、大学校。	○文化や生活に根ざした集まりを結集した町民大学校をつくる。	●「和紙の里を愛する会」や「そば愛好会」などを母体とした町民大学校をつくり町民の結束による町おこしを実践する。		
・有志の方々で結束すれば行動力は負けない。 ・災害復興イベントは盛況であった。	○町民が結束すれば大きな力が発揮できる。			
・担い手になる人が必要で、役場はそのきっかけをつくる。 ・役場の人と話をする場をつくったらいいと思う。	○役場と町民とのパイプができればそれぞれに力が発揮できる。			

表8(上段)によれば、②についてもポイントは二つあり、一つは観光客の立場に立った産業観光化を図るため、施設やお店それらのトータルなまちづくりのいずれにも差別的優位性が必要でかつ持続性が求められることである。つまり、施設やお店が観光客を相手にするには、そもそも観光客を増やす必要があり、それには観光客の立場に立って、施設やお店をつくる必要があり、リピート客もそのような中から期待出来るものである。そして、観光客の心をつかむには、サービス内容面で、他の観光地でない特色を出す必要がある。もう一つは今立町の生業(なりわい)・営為(いとなみ)の中に都会の人を受け入れる発想が必要で、「東京いまだて物語」も、都会人に今立和紙

を支える女性の姿から越前和紙を理解してもらうことも必要である。例えば、意外と知られていない女性中心の越前和紙の作業場を再現し知ってもらうことも考えてみたい。

同じく表8(中段)によれば、③については、和紙の里に育つグリーンツーリズムの動きを、観光の多様な展開としてとらえ、相互に関係づけることが新たな産業観光として魅力が増すことになる。すなわち、一つは和紙の里に育つグリーンツーリズムの動きは、施設や制度面で充実しつつあり、観光の多様な展開として期待されるからである。もう一つは都会人が農業体験を目的として今立を訪れており、農作業を中心としたグリーンツーリズムが都市との交流を深めているからであ

表8 論点②③④

第1回懇談会およびヒアリング調査による意見	第1段階の集約	第2段階の集約	ポイント(第3段階の集約)	論点(第4段階の集約)
- 観光客の心をくすぐる。 - デモンションを高めお客さんを楽しませる。 - 自分だけが知っている店があるという雰囲気が出せれば。 - お客さんの大半は一回の訪問で良いと考えている。 - 一度来た観光客に何度も来てもらう工夫。 - 観光サービスの個性化が求められており工夫が必要。 - 観光客のニーズの多様化に合わせたワークショップ。 - 女性のグループ客は和紙の里通りで1時間くらい滞留する。 - 休憩日は設けない。 - 観光客を相手にするには観光客の数を増やす。	○観光客の身になって何が喜ばれるかを考えてみる。 ○一度来た観光客に再び訪れてもらう工夫をしたい。 ○観光客の心をつかむには、サービス内容も個性化が必要。	●観光客の立場に立って、施設やお店をつくる必要があり、リピーター客もそのような中から期待できる。 ●観光客の心をつかむには、サービス内容面、他の観光地でない特色を出す必要がある。	☆観光客の立場に立った産業観光化を図るため施設やお店それぞれのトータルなまちづくりのうえにも差別的優位性が必要でかつ持続性が求められる。	②観光客の立場に立った産業観光とは、今立町の生業・営為の中に観光客を受け入れるもので、発想の原点は「東京いまだて物語」(東京で実施しているイベント)にある。
・農村の生業・営為の中に都市の人を受け入れる。 ・都市側の発想ではなく農村側の発想で。 ・「東京いまだて物語」。 ・都市と農村の真の交流を目指したまちづくり。 ・和紙業界の雇用構造は、女性従業員が2/3を占める。 ・紙造きの作業場の再現。 ・農業の見直しが必要。 ・今立町における農業の役割を強化する。 ・農業をしている人が元気になることが基本。 ・農業と和紙の連携を考える。 ・グリーンリゾーツの発想を今立に。 ・和紙の里とグリーンリゾーツの体験ツアー。 ・「八杉千年の森」にて木工体験、林業体験、集会場を。 ・都会人のオーナー制(そば、里芋等)の施設。 ・都会人と地元中学生も参加した体験農業の実施。 ・都会人の体験農業(田んぼ)の実施。 ・農作業を中心としたグリーンリゾーツを推進している。 ・グリーンリゾーツとして都市からの流入を受け入れている。 ・折り紙体験コーナー。 ・パピルス館では個人客が増え相手が出来るようになった。 ・パピルス館では団体客の時間に制限がある。 ・個人客はゆったり和紙の里を見学できる。 ・団体客数よりも個人客の増加に努める。 ・団体客からマイカー客に客層が変化している。 ・外国人向けの産業観光を目指す。 ・外国人観光客は体験型観光に興味を示している。	○今立町の生業・営為の中に都市の人を受け入れる発想。 ○「東京いまだて物語」の成果をまちづくりに生かす。 ○意外と知られていない女性中心の作業場の再現。 ○今立町の農業の再評価・再認識の段階にある。 ○和紙の里に育つグリーンリゾーツの発想。 ○グリーンリゾーツを通し施設や制度も充実してきた。 ○都会人が農業体験を目的として今立を訪れている。 ○農作業を中心としたグリーンリゾーツによる都市との交流。 ○パピルス館では、個人客相手の様々な体験コーナーを用意する。 ○個人客の増加は、時間に縛られない観光パターンとなる。 ○体験型産業観光を目指せば、外国人観光客が呼べる。	●今立町の生業・営為の中に都会の人を受け入れる発想が必要で、「東京いまだて物語」の成果が期待される。 ●今立町の農業の再評価・再認識が必要となっており、和紙を中心とした産業観光の中にその活路を見出したい。 ●和紙の里に育つグリーンリゾーツの動きは、施設や制度面で充実しつつあり、観光の多様な展開として期待される。 ●都会人が農業体験を目的として今立を訪れており、農作業を中心としたグリーンリゾーツが都市との交流を深めている。 ●団体客から個人客に顧客層が多くなり、一般的な観光動向でもあり、個人客相手の様々な体験コーナーを設けたい。	☆今立町の生業・営為の中に都会の人を受け入れる発想が必要で「東京いまだて物語」も、今立和紙を支える女性の姿から越前和紙を理解してもらうことも必要。 ☆和紙の里に育つグリーンリゾーツの動きは観光の多様な展開としてとらえ、相互に関係付けることが新たな産業観光として魅力がある。 ☆団体客から個人客に顧客層が多くなり、個人客相手の体験型産業観光は魅力となり、外国人観光客も呼べ、新たな産業観光の姿ともなう。	③産業観光を目指す和紙の里構想と今立町の農業の再評価となるグリーンリゾーツを結びつけ相互に活路を開く。 ④観光消費にも個性化・高度化が進んでおり、個人・家族・サークルや外国人をターゲットにした産業観光を目指す。

る。一方農業の側からみると、今立町の農業の再評価・再認識が必要となっており、和紙を中心とした産業観光の中にその活路を見い出したいからである。

同じく表8(下段)によれば、④については、団体客から個人客に顧客層が移っており、個人客相手の体験型産業観光は魅力となり、外国人観光客も呼べ、新たな産業文化観光の姿ともなう。すなわち、今立町においても団体客から個人客に顧客層が移っており、一般的な観光動向でもある。個人客の増加は、時間に縛られない観光パターンとなり、個人客相手の様々な体験コーナーを設けたいからである。また、体験型観光を目指せば、外国人観光客が呼べるからである。

表9によれば、⑤についてはポイントは二つあり、一つはまず身近な産地との連携からはじめ、将来は越前4産地が結束して産地製品を紹介し合うとともに、共同イベントの開催など相互の交流を図ることである。すなわち、産業観光の魅力を増すには、いくつかの産地が協力し合うことが必

要で、まず身近な産地との連携を図ることになる。具体的には、越前和紙(今立町)、越前漆器(鯖江市・今立町)、越前打刃物(旧武生市)、越前焼(越前町)の越前4産地が結束して産業観光に取り組む必要があり、同時イベントの開催は大きな魅力となる。このようなイベントを通して、越前4産地が相互に産地製品を紹介し合うとともに、相互の交流を通して異種素材を組み合わせた新製品を開発することにもなることが期待される。もう一つは旧武生市、鯖江市、今立町、越前町に及ぶ越前工芸産地エリアで完結する工芸産業観光地を目指すことにより、県外客や高齢者に魅力となれば、宿泊型観光地として発展が期待される。すなわち、この越前工芸産地のエリアで宿泊型観光を目指す必要があり、特に高齢者や県外客には宿泊できることは魅力となるからである。具体的には、宿泊を望む観光客のために、宿泊施設として民泊の利用も考えられ、宿泊型の産業観光を考えていく必要がある。

表10(上段)によれば、⑥についてもポイント

表 9 論点⑤

第1回懇談会およびヒアリング調査による意見	第1段階の集約	第2段階の集約	ポイント(第3段階の集約)	論点(第4段階の集約)
・越前クラフトテトラアングル(和紙、漆器、刃物、焼物)。 ・越前クラフトトライアングル(和紙、漆器、刃物)。 ・4産地が共同して県産品愛用運動を展開する。	○越前の工芸産地が結束して産地振興を図る。	●越前工芸4産地が結束して、産業観光に取り組む必要があり、同時イベントの開催は大きな魅力となる。	☆まず、身近な産地との連携がはじめ、将来は越前4産地が結束して産地製品を紹介し合うとともに、共同イベントの開催など相互の交流を図る。	⑤越前工芸4産地が結束し、共通の目標である工芸産業観光地化を図り、県外客を中心とした宿泊型の観光地を目指す。
・和紙、漆器、刃物、焼物の4産地共同イベントの開催。 ・丹南工芸4産地を結ぶシャトルバスの運行。	○越前の工芸4産地の同時イベントを開き、シャトルバスでつなぐ。	○産地観光の魅力を増すには、いくつかの産地が協力し合うことが必要で、まず身近な産地との連携を図る。		
・河和田漆器と今立和紙の連携。 ・河和田のうるしを取り入れた産業観光。 ・武生のナイフビレッジと大滝のペーパーランド。	○まず、身近な隣り合う産地をつなぐ連携した産業観光。	●産地観光の魅力を増すには、いくつかの産地が協力し合うことが必要で、まず身近な産地との連携を図る。		
・市町村合併を射程に入れる。 ・合併を記念して越前市工芸品フェアを開催する。	○武生市との合併を射程に、越前市工芸として飛躍する。	●越前4産地は相互に産地製品を紹介し合うとともに、相互の交流を通して異種素材を組み合わせた新製品を開発する。		
・他3産地にそれぞれ越前和紙を紹介する施設をつくる。 ・和紙の里通りに他3産地(漆器、刃物、焼物)を紹介する施設をつくる。	○越前4産地は相互に産地製品を紹介し合う。	●越前工芸産地エリアで宿泊型観光を目指す必要があり、高齢者や県外客には宿泊できることが魅力となる。	☆越前工芸産地エリアで完結する工芸産業観光地化を目指すことになれば、宿泊型観光地として発展が期待される。	
・ナイフビレッジに展示されていた和紙と異種素材との組み合わせ。		●越前工芸産地エリアで宿泊型観光を目指す必要があり、高齢者や県外客には宿泊できることが魅力となる。		
・和紙と繊維業界の異業種交流。		●越前工芸産地エリアで宿泊型観光を目指す必要があり、高齢者や県外客には宿泊できることが魅力となる。		
・越前クラフトアングル構想で宿泊型観光を目指す。 ・宿泊施設は今立になくても武生との連携で。	○越前工芸産地のエリアで宿泊型観光を目指す。	●越前工芸産地エリアで宿泊型観光を目指す必要があり、高齢者や県外客には宿泊できることが魅力となる。		
・高齢者にとっては宿泊型の観光が理想的である。 ・県外客のための宿泊施設。	○高齢者や県外客には宿泊できることが魅力となる。	●越前工芸産地エリアで宿泊型観光を目指す必要があり、高齢者や県外客には宿泊できることが魅力となる。		
・宿泊施設は和紙の需要に結びつく。		●越前工芸産地エリアで宿泊型観光を目指す必要があり、高齢者や県外客には宿泊できることが魅力となる。		
・日帰り型から宿泊型へ。 ・1泊2日の観光地。	○日帰り型とともに宿泊型の産業観光も考えたい。	●越前工芸産地エリアで宿泊型観光を目指す必要があり、高齢者や県外客には宿泊できることが魅力となる。		
・町中に宿泊施設・民泊施設を設けられないか。 ・農家民宿特区に指定。	○町中に宿泊施設が必要で、民泊からはじめられないか。	●越前工芸産地エリアで宿泊型観光を目指す必要があり、高齢者や県外客には宿泊できることが魅力となる。		

表 10 論点⑥⑦

第1回懇談会およびヒアリング調査による意見	第1段階の集約	第2段階の集約	ポイント(第3段階の集約)	論点(第4段階の集約)
・和紙の里通りに、高齢者に優しい飲食店をつくる。 ・街中にスポーツ的なバリアフリー箇所を設ける。	○高齢者をターゲットとしたエリアや店があると魅力的。	●和紙の里通りの200mは、高齢者に往復出来る距離であり、和紙に理解のある高齢者をターゲットとしたまちづくりは魅力的である。	☆和紙の里通りの広さは、高齢者にとって負担の少ないもので、和紙の魅力も高齢者層に理解され易く、産業観光として期待される。	⑥和紙を知る高齢者を観光対象として、お年寄りに優しい観光地づくりを目指すのも産業観光の道である。
・和紙の里通りの200mは、高齢者に往復出来る距離である。				
・高齢化社会が来る今どうするか。 ・高齢化社会に向け、どう仕掛けをするか。	○高齢化社会に向けて今立町が取る仕掛けは。	●高齢化社会に向けて、今立町の取る仕掛けは、高齢者に魅力ある産地として産業観光を推進する。		
・高齢化に合せた産地振興。 ・高齢者のための産地観光。	○高齢化社会に向けた産地振興や産地観光があって良い。	●和紙の里通り・施設のバリアフリー化と町内にいくつかのバリアフリーゾーンを設け、お年寄りに優しい町づくりを推進する。	☆和紙の里通りへのアクセス改善とともに、通りや施設のバリアフリー化、バリアフリーゾーンを設けるなど、お年寄りに優しい町づくりを推進する。	
・高齢者の来るまちづくり。 ・お年寄りに優しいまちづくり。	○和紙の里通りに限らず町全体がお年寄りに優しい。	●和紙の里通り・施設のバリアフリー化と町内にいくつかのバリアフリーゾーンを設け、お年寄りに優しい町づくりを推進する。		
・和紙の里通り・施設を全てバリアフリーに。 ・和紙の里通りのバリアフリー化は、高齢者にとって魅力となる。	○和紙の里通り・施設のバリアフリー化。	●和紙の里通りへのアクセスは高齢者を考え、直行バスが良い。		
・高齢者の多くは車で動けない。 ・高齢者は自家用車ではなく、バスの利用が中心である。 ・武生市、鯖江市、福井市からの直行バスの運行。	○和紙の里通りへのアクセスは高齢者を考え直行バスが良い。	●和紙の里通りへのアクセスは高齢者を考え、直行バスの運行が良いが、タクシー利用に考慮した割引制度も設けたい。		
・高齢者のタクシー利用に割引制度を設ける。				
・観光客に有機米・有機野菜の供給が出来ないか。 ・食の安全はこれらが大変重要となる。 ・産地地消を目指した取り組み。	○観光客に今立町で採れた安全な農産物を供給する。	●今立町の「安全な農産物」を利用して、和紙の里通りに地元食材を使った健康志向型の食事処をつくる。	☆和紙の里通りに、地元食材を使った健康志向型の食事処をつくり、町内の有機低農薬栽培農家と協力して町の新たな魅力づくりを図る。	⑦観光地の魅力として食の占める位置は高く、和紙の里にふさわしく食の安全にも配慮した地元食材主体の料理を提供する。
・食による健康志向を産業観光にも取り入れる。 ・和紙の里通りに、地元食材を使った食事処を設ける。	○和紙の里通りに地元食材を使った健康志向型の食事処を。	●食の安全が叫ばれる今日、今立町ではすでに有機農法研究会が実績を積み重ね、低農薬栽培への取り組みもある。		
・平成6年に有機農法研究会結成(有機米づくり・オーナー制・民泊)。 ・今立町は米の単作地帯で米中心の有機農法に取り組む。 ・子供の病気(アトピー)から有機農法に取り組む。	○今立町の有機農法研究会がすでにあり、実績を積み重ねている。	●食の安全が叫ばれる今日、今立町ではすでに有機農法研究会が実績を積み重ね、低農薬栽培への取り組みもある。		
・これからは農業を続けたいと思えば低農薬は必然。 ・有機農法で無農薬野菜・トマト・小松菜・ほうれん草等。	○今立町では低農薬栽培への取り組みも盛んである。	●和紙の里で楽しむそばの魅力を引き出す。	☆和紙の里で楽しむそばは魅力的であるが、和紙との組み合わせで差別化を図るとともに、そば以外の郷土料理(越前料理)も食の魅力として加えたい。	
・町内そば屋を巡る和紙の里通り発の巡回ミニバス。 ・おいしいそばなんだが遠くで来れない。 ・武生「そばの里」との連携。	○和紙の里で楽しむそばの魅力を引き出す。	●和紙の里で楽しむそばの魅力を引き出すため、和紙とそばを組み合わせた演出・工夫が欲しい。		
・和紙と食文化。 ・おいしいそばとの組み合わせが出来ていない。 ・越前そばの和紙着置き。	○和紙とそばとを組み合わせた演出・工夫が欲しい。	●郷土料理の食べられる食事処や越前料理の食べられる料理旅館などで食の魅力を引き出す。		
・和紙の里に郷土料理のバラエティが必要。 ・和紙の里に一軒だけのそば屋では魅力がない。	○和紙の里通りに郷土料理の食べられる食事処をつくる。	●郷土料理の食べられる食事処や越前料理の食べられる料理旅館などで食の魅力を引き出す。		
・和紙の里通りで味わえる「寿屋」さんの越前料理。 ・和紙の里通りで予約できる「寿屋」さんの越前料理。	○町の料理旅館を活用し、越前料理を味わえるようにする。			

は二つある。一つは和紙の里通りの広さは高齢者にとって負担の少ないもので、和紙の魅力も高齢者層に理解され易く、産業観光として期待されることである。すなわち、和紙の里通りの200m

は高齢者に往復出来る距離であり、和紙に理解のある高齢者をターゲットとしたまちづくりは魅力的であると考えられる。高齢化社会に向けて、今立町の取る仕掛けは、高齢者に魅力ある産地とし

て産業観光を推し進めることである。もう一つは和紙の里通りへのアクセス改善とともに、通りや施設のバリアフリー化、バリアフリーゾーンを設けるなどお年寄りに優しい町づくりを推進することである。具体的には、和紙の里通りへのアクセスは高齢者を考え、直行バスの運行が良いが、タクシーの利用に考慮した割引制度も設けたい。和紙の里通り、施設のバリアフリー化と町内にいくつかのバリアフリーゾーンを設け、お年寄りに優しい町づくりを推進する必要があるだろう。

同じく表10(下段)によれば、⑦についても二つのポイントがある。一つは和紙の里通りに地元食材を使った健康志向型の食事処をつくり、町内の有機低農薬栽培農家と協力して町の新たな魅力づくりを図ることである。すなわち、食の安全が叫ばれる今日、今立町ではすでに有機農法研究会が実績を積んでおり、低農薬栽培への取組もあるからである。具体的には今立町の「安全な農産物」を利用して、和紙の里通りに地元食材を使った健康志向型の食事処をつくることである。もう一つは和紙の里で楽しむそばは魅力的であるが、和紙との組み合わせで差別化を図るとともに、そば以外の郷土料理（越前料理）も食の魅力として加えたいことである。すなわち、和紙の里で楽しむそばの魅力を最大限引き出すため、和紙とそばとを合わせた演出・工夫が欲しい。具体的には郷土料

理の食べられる食事処や越前料理の食べられる料理旅館などで食の魅力を売り込む必要があろう。

表11によれば、⑧については三つのポイントがある。一つは全国の和紙産地の頂点を目指し、リーダーシップを発揮するため、多様な和紙製品の展示イベントをはじめ、和紙の原料育成園をつくるなど、話題性のある企画を実施することである。すなわち、全国の和紙産地の中でリーダーシップを発揮するため、多様な和紙製品の展示イベントなど話題性のある企画を実施する必要があることである。また、和紙の原料の楮はかつて町内に自生していたものであり、その育成を図り、より自然な原料、良質な原料の確保につなげたいからである。もう一つは卯立の工芸館は、和紙技術継承のための伝導館としての役割を担っており、和紙技術学院として後継者育成や生涯学習の場としても活用したいことである。すなわち、卯立の工芸館は、和紙技術継承のための伝導館として整備するとともに、和紙技術学院（紙芸学院）として後継者を育成する。また、産業観光には「学び」の要素が伴い、小中学校・高校・大学さらに生涯学習として役立てることも期待できる。三つめは、和紙と住空間・しつらえをテーマとしたモデルルームをつくり、部屋全体が生きた見本帳となるようにすることである。

表11 論点⑧

第1回懇談会およびヒアリング調査による意見	第1段階の集約	第2段階の集約	ポイント(第3段階の集約)	論点(第4段階の集約)
・和紙製品のターゲットは少量多品種製品にある。 ・和紙の種類が多ければイベントも絞れない。 ・和紙を使った工芸品の展示イベントを開催(面・張子等)。 ・全国の和紙産地とのネットワークを形成し情報拠点となる。 ・全国の和紙の展示。 ・全国の和紙産地に呼びかけてカレンダーをつくる。	○少量多品種の和紙産地の特色を活かした多様な製品展示イベント。 ○全国の和紙産地をリードしていくための仕掛けが欲しい。	●全国の和紙産地の中でリーダーシップを発揮するため、多様な和紙製品の展示イベントや話題性のある企画を実施する。 ●和紙の原料の楮は、町内に自生していたものであり、その育成を図り、より自然な原料、良質な原料を確保したい。	☆全国の和紙産地の頂点を目指し、リーダーシップを発揮するため、多様な和紙製品の展示イベントをはじめ、和紙の原料育成園をつくるなど、話題性のある企画を実施する。	⑧全国の和紙産地の頂点を目指し、原材料・技術・製品開発・販売等の面で他産地にならぬ取組をするべきである。
・市内に和紙原料の育成園を設ける。 ・紙の原料楮栽培公園。 ・紙漉きの原料を見せる。 ・健康志向・健康素材としての和紙の利用。 ・「弥陀の舞」では楮を刈る場面が登場する。	○町内に和紙の原料育成園をつくる。	●産業観光には学びの要素が伴い、小中学校・高校・大学さらには生涯学習として役立てたい。	☆卯立の工芸館は、和紙技術継承のための伝導館としての役割も担っており、和紙技術学院として後継者育成や生涯学習の場としても活用したい。	
・学校に紙漉き室をつくる。 ・県内小・中学校の社会科見学の場。 ・県内高校・大学の校外授業の場。 ・関西からの修学旅行の場。 ・「これが越前和紙」の展示を卯立の工芸館2階で行う。 ・紙立てなど貴重な技術を卯立の工芸館で見られる。 ・卯立の工芸館の活用はまだあると思う。 ・卯立の工芸館に後継者育成の和紙工芸学院としての機能を加える。 ・和紙の部屋をつくり見本帳として利用する。 ・古い民家を再生して、和紙を使ったモデルハウス。 ・和紙を使ったモデルルームをつくる。 ・たくさん種類の和紙を活かした和室モデルルーム。 ・和紙と住空間・しつらえ。	○町だけでなく県内の小・中学校の社会科学習の場とする。 ○修学旅行コースに加えてもらうとともに校外授業の場としたい。 ○卯立の工芸館は和紙技術の展示館として整備する。 ○卯立の工芸館を利用して技術継承のための学院を設立する。 ○古い民家や和紙を使った部屋自体が見本帳となる。 ○たくさん種類の和紙を用いたモデルルームをつくる。	●和紙と住空間・しつらえをテーマとしたモデルルームをつくり、部屋全体が生きた見本帳となるようにする。		

表 12 論点⑨⑩

第1回懇談会およびヒアリング調査による意見	第1段階の集約	第2段階の集約	ポイント(第3段階の集約)	論点(第4段階の集約)
・和紙製品(干支・置物・タペストリー他)。 ・和紙製品ア・ラ・カルト。	○和紙製品の多様な展開も魅力となっている。	●和紙製品の多様な展開を図るため、衣食住のデザイン展や近代工芸やファッションなどの展示会に参加すべきである。	☆和紙製品の多様な展開を図るため、衣食住のデザイン展やファッション展へ参加することにより、環境に優しい再利用可能な素材としての価値を創造する。	⑨和紙製品の多様な展開には、衣食住のデザイン展やファッション展に参加している問屋や研究開発型企業の取り組みが欠かせない。
・和紙のデザイン展示会への参加。				
・地球環境に優しい和紙・和紙製品。 ・包装紙に利用される和紙はあらかじめ再利用を考える。 ・紙コップなど環境に優しい素材として活用する。	○環境に優しい、再利用可能な素材としての和紙利用。	●和紙の素材としての利用範囲を広げ、環境に優しい、再利用可能なテキスタイルとして新製品を開発する。		
・紙布(たて糸：綿・麻、よこ糸：和紙)。 ・和紙の新製品開発(靴下、タオル他)。	○繊維テキスタイルとして和紙の新製品開発。			
・今立町の繊維業界には県で技術化支援中。				
・和紙の問屋の企画力を活用した商品開発。 ・新製品開発に必要な問屋の情報機能の低下が問題。	○産地問屋の企画力を再び産地の新製品開発に活かす。	●産地問屋の企画力・販売ノウハウ・市場情報などの再利用を図り、新製品開発や販売方法の面で産地改革に取り組む。	☆産地内にある問屋や研究開発型企業の企画力や研究開発力を結集し、新たな販売方法や新製品開発に取り組む。	
・商品の品揃え、接客・ソフト面の向上。				
・少量多品種の特性を生かす(4,5枚の注文でも対応する)。				
・新素材を使った介護用おむつメーカーがある。 ・明かりを通して見せる紙に取り組んでいる企業がある。	○産地内にある研究開発型企業は産地振興の力。	●産地内にある研究開発型企業は、産地振興の支えであり、和紙を使った試作品などを創る場も欲しい。		
・和紙を使った照明器具の研究開発・新製品開発。				
・和紙の試作品を創る場が必要である。				
・和紙組合の売店をアンテナショップとして活用する。 ・売れ筋商品(シール、折り紙、コースター)。 ・丹南地域を中心にネット直売(彩来.com)。	○販売情報の活用と新たな販売方法の取り組み。	●全国の販売・消費に注力すべきであり、原産地表示や生産者表示に取り組むなど、販売情報の活用先進性を発揮する。	☆全国の和紙産地をリードし、和紙の原産地表示や生産者表示に取り組むとともに、今日の住環境や生活感覚に合った製品の若い組合員の中から生み出す。	⑩和紙組合の取り組みとして全国の和紙産地の先駆けとなる消費者対策や県内での地場産品の普及を図りたい。
・和紙の使われ方がわかるようにする。 ・和紙にも原産地表示や生産者表示を導入したい。	○和紙の原産地表示や生産者表示とともに使われ方を調べる。			
・和紙の最終商品化を図る必要がある。				
・和紙組合青年部・若手グループ・中堅グループに期待する。 ・和紙青年部会は障子紙に取り組んでいる。	○和紙組合青年部や若手グループの取り組みに期待。	●和紙組合の青年部や若手グループ・中堅グループの取り組みが期待され、今日の住環境・生活感覚に合った製品を生み出したい。		
・インテリア用障子紙には4.5年持つものを開発する。 ・最近になって障子紙を手がけるようになってきた。	○今日の住環境・生活感覚に合った障子紙を開発する。			
・県内で出版物に越前和紙の利用を働きかける。 ・県内の駅弁・空弁に使われる包装紙を越前和紙にする。 ・県内の土産品などの包装紙として越前和紙を利用する。	○県内で使われる包装紙をはじめとする紙に和紙を普及させる。	●越前和紙を県内でもっと利用してもらい、その普及を図るとともに、和紙に限らず県内の工芸品を公共施設に活用する。	☆越前和紙の需要拡大には、まず県内での地場産品の利用促進を図り、公共機関や公共施設での普及、民間需要の掘り起こしが必要。	
・県内の公共施設の建設にあたって建設費の1%を工芸品に使う。				
・和紙を利用した手づくり名刺。				
・居酒屋などからの特注に応じた紙づくり。 ・武生の「蔵の辻」(伝統的建築物を活かした街並)との連携。	○和紙の需要先として武生の「蔵の辻」や居酒屋の特注に応じる。			

表12(上段)によれば、⑨については二つのポイントがある。一つは和紙の多様な展開を図るため衣食住のデザイン展やファッション展へ参加することにより、環境に優しい再利用可能な素材として和紙の価値を創造することである。すなわち、和紙製品の多様な展開を図るため衣食住のデザイン展や近代工芸やファッションなどの展示会に参加すべきで、そのような中から和紙の素材としての利用範囲を広げ、環境に優しい、再利用可能なテキスタイルとして新製品を開発することが期待できる。すでに繊維テキスタイルとして開発した和紙の新製品も生まれており、一方、今立町の繊維業界に対しては県で技術化支援中でもある。もう一つは産地内にある問屋や研究開発型企業の企画力や研究開発力を結集し、新たな販売方法や新製品開発に取り組むことである。すなわち、産地問屋の企画力・販売ノウハウ・市場情報などの再利用を図り、新製品開発や販売方法の面で産地改革に取り組む必要があることである。また、産地内にある研究開発型企業は、産地振興の支えであ

り、和紙を使った試作品などを創る場も欲しい。

同じく表12(下段)によれば、⑩についても二つのポイントがある。一つは全国の和紙産地をリードし、和紙の原産地表示や生産者表示に取り組むとともに、今日の住環境や生活感覚に合った製品を若い組合員の中から生み出すことである。すなわち、和紙の販売・消費に注力すべきであり、原産地表示や生産者表示に取り組むなど、販売情報の活用先進性を発揮することが期待される。また、和紙組合の青年部や若手グループ・中堅グループの取組が期待され、今日の住環境・生活感覚に合った製品を生み出すことにつなげたいからである。もう一つは、越前和紙の需要拡大には、まず県内での地場産品の利用促進を図り、公共機関や公共施設での普及、民間需要の掘り起こしが必要であることである。すなわち、越前和紙を県内でもっと利用してもらい、その普及を図るとともに、和紙に限らず県内の工芸品を公共施設に活用することである。例えば和紙の需要先として武生の「蔵の辻」をはじめ県内の居酒屋の特注に応

じることである。

表13によれば、⑪については二つポイントがある。一つは和紙の里通りの街並み整備には、他地域の事例も参考にするとともに、イラストマップやパンフレットにも工夫するなど話題性を高めることである。すなわち、和紙の里通りの街並み整備には、松本や輪島を参考にし、イラストマップにあっては川越（拙稿：参考文献22）を参考にすることがある。また、観光パンフレットには、年代別、県内・県外別などの工夫も欲しい。なお、和紙の里通りを道の駅として整備することも考えられる。もう一つは和紙の里通りの滞留時間を長くするには、施設の連担、販売方法等の問題もある

が、和紙を素材とした美術品や工芸品ギャラリー、休憩所を兼ねた総合案内施設を設けたいことである。すなわち、和紙の里通りの滞留時間を増やす必要があり、施設が連担していないことや販売方法、休憩施設等の改善が望まれる。また、和紙の里通りの魅力を増大するため、素材を和紙に求めた美術・工芸ギャラリーや総合案内施設も設ける必要がある。

表14によれば、⑫についても二つポイントがある。一つは和紙の里会館を中心にした和紙に関する資料・情報、卯立の工芸館を中心にした和紙づくりを組み合わせた静と動の博物館として売り出すことである。すなわち、和紙の里会館の資料・

表13 論点⑪

第1回懇談会およびヒアリング調査による意見	第1段階の集約	第2段階の集約	ポイント(第3段階の集約)	論点(第4段階の集約)
・和紙の里通りのパンフレットを年代別につくる。 ・町内のパンフレットも年代別、県内・県外客別につくる。	○観光パンフレットには、年代別、県内・県外客別を考える。		☆和紙の里通りの街並み整備には、他地域の事例も参考にするとともに、イラストマップやパンフレットにも工夫するなど話題性を高める。	⑪和紙の里通りの街並み整備は未完成で、和紙を通じた工芸文化の発信や魅力的な施設の紹介に改善の余地がある。
・和紙の里通りを道の駅として整備する。				
・信州松本中町通り。 ・能登輪島朝市本町通り。 ・和紙の里通りの街並み整備。	○和紙の里通りの街並み整備に活かしたい事例。	●和紙の里通りの街並み整備には、松本や輪島を参考にし、イラストマップの作成にあたっては川越を参考にする。		
・捨てられない観光マップ。 ・和紙の里通りのイラストマップをつくる。 ・埼玉県川越市一番街。	○和紙の里通りのイラストマップに活かしたい事例。			
・和紙の里会館の滞留時間は最も少ない。 ・いろいろな紙を手に入れるには滞留時間が必要。	○滞留時間の増加は、施設整備・品揃えに工夫を要する。	●和紙の里通りの滞留時間を増やす必要があり、施設が連担していないことや販売方法、休憩施設等の改善が望まれる。	☆和紙の里通りの滞留時間を長くするには、施設の連担、販売方法等の問題もあるが、和紙を素材とした美術品や工芸品ギャラリー、休憩所を兼ねた総合案内施設を設けたい。	
・和紙の里通りは、立寄り観光でなく滞留時間を長くする。 ・一時間あれば見学可能な場。	○和紙の里通りの滞留時間を増やす工夫が不可欠。			
・和紙の里のギャラリーは遊び半分で開店。 ・押し花絵展でギャラリーを活用中。 ・ギャラリー風の店をいくつか設ける。	○越前和紙が使われた美術・工芸品ギャラリーに特化する。	●和紙の里通りの魅力を増大するため、素材を和紙に求めた美術・工芸品ギャラリーや総合案内施設も設けたい。		
・和紙の里通りの施設整備はまだ足りない。 ・和紙の里通りを魅力的な通りにする。 ・和紙の里通りに総合案内施設を設ける。	○和紙の里通りには、さらに魅力的な施設が欲しい。			
・今立和紙の里を観光コースの最後に訪れるようにする。				

表14 論点⑫

第1回懇談会およびヒアリング調査による意見	第1段階の集約	第2段階の集約	ポイント(第3段階の集約)	論点(第4段階の集約)
・和紙の資料を網羅する。 ・日本一の紙の博物館を目指す。	○和紙に関する資料を網羅した和紙の博物館をつくる。	●和紙の里会館の資料・文庫・製品見本・資料類など、和紙に関する資料を網羅した博物館をつくる。	☆和紙の里会館を中心にした和紙に関する資料・情報、卯立の工芸館を中心にした和紙づくりを組み合わせた静と動の博物館として売り出す。	⑫和紙の里通りそのものが博物館であり、今立町全体が生活文化の発信や魅力的な施設の紹介に改善の余地がある。
・和紙の里会館にある製品見本は極めて貴重である。 ・徳川末期の道具の再現。 ・和紙の里会館の資料・文庫を活かした和紙の博物館。	○和紙の里会館の資料・文庫・製品見本・道具は博物館級。			
・昔からの紙漉き道具がそろっている。				
・和紙の里会館は県外の情報発信の拠点。 ・和紙の里会館は越前和紙を知ってもらう施設。	○和紙の里会館は和紙情報の発信拠点とする。	●和紙の里会館を中心にした和紙情報、卯立の工芸館を中心にした和紙づくりの拠点とするなど伝統産業振興の拠点とする。		
・伝統産業振興の拠点としての今立町。 ・和紙づくりの拠点としての今立町。	○和紙づくりの拠点だけでなく伝統産業振興の拠点とする。			
・今立の和紙は生産量、種類で日本一。				
・文字の博物館。 ・書写材料の博物館。	○文字や書写材料など紙に関する博物館も面白い。			
・岡本公民館の建築美。 ・町内の和紙工房探索コースの設定。 ・体験工房を効々に設ける。	○町内の和紙工房を探索できたら様々な見聞がある。	●町内の名所・旧跡・古い街並みの中の和紙工房を探索できるようなコースを設け、巡回ミニバスと徒歩で散策できるようにする。	☆和紙の里通りを飛び出し、町内の名所・旧跡、古い街並みの中の和紙工房を探索できるようなコースを設け、ミニバスや自転車などで自由に散策できるようにする。	
・和紙の里通り発の古い街並、和紙組合、岡太神社、大瀬神社を巡る巡回バスの運行。 ・和紙の里通り発の花笠公園、小次郎公園のバス運行。	○町内の名所・旧跡、古い街並、和紙組合などの巡回バスの運行。			
・レンタサイクルの活用。 ・サイクリングロードの整備。 ・人力車の活用。	○自転車や人力車で気軽に散策できる観光が向いている。	●和紙の里通りを飛び出し、町内を徒歩や自転車・人力車で自由に散策できるような演出・工夫をする。		
・もっとゆっくり和紙の里を楽しんでもらいたい。 ・観光客によっては時間をとめてほしい人もいいる。 ・平日居られるような休憩スペースを設ける。	○和紙の里を楽しんでもらうための演出・工夫をする。			

文献、製品見本、道具類など和紙に関する資料を網羅した博物館をつくる必要がある。そして、和紙の里会館を中心に和紙情報、卯立の工芸館を中心に和紙づくりの拠点とするなど伝統産業振興の拠点モデルとすることが期待される。なお、文字や書写材料など紙に関連する博物館も興味深い。もう一つは和紙の里通りを飛び出し、町内の名所・旧跡、古い街並みの中の和紙工房を探索できるようなコースを設け、ミニバスや自転車で自由に散策出来るようにすることである。すなわち、和紙の里通りを飛び出し、町中を徒歩や自転車・人力車で自由に散策できるような演出・工夫をする必要がある。具体的には、町内の名所・旧跡、古い街並みの中の和紙工房を探索できるようなコースを設け、巡回ミニバスと徒歩で散策できるようにする。

表 15 によれば、⑬については二つポイントがある。一つは和紙の里通りのイベントは個々の施

設の特色を活かすとともに、町の行事や祭りを組み合わせて、町民も楽しめ全国にもアピール出来る企画としたいことである。すなわち、和紙の里通りを中心としたイベントに個々の施設の特色を活かすとともに町内の行事・祭りを取り込んで町ぐるみで実施する必要がある。なお、全国にアピール出来るようなイベントの企画に期待したい。もう一つ、和紙は人々の生活文化の中で息づいてきたものであり、今日の暮らしの中や通過儀礼の中で、新たな和紙の登場の場を模索すべきである。すなわち、和紙を使って「包む」という行為から生まれる文化、和紙の扱い方や利用による生活文化を見直す必要がある。具体的には、豊かな生活を求めるようになった今日、暮らしの中や通過儀礼の中における和紙の普及を図る教室を開催するなどである。いずれにしろ、和紙を守る姿勢から、和紙で攻める姿勢に転じる必要があろう。

表 15 論点⑬

第 1 回懇談会およびヒアリング調査による意見	第 1 段階の集約	第 2 段階の集約	ポイント(第 3 段階の集約)	論点(第 4 段階の集約)
・ニッポン全国和紙フェスタ。 ・和紙のお宝展の開催。	○全国にアピールできるようなイベントの企画。	●和紙の里通りを中心としたイベントに個々の施設の特色を活かすとともに、町の行事や祭りを組み合わせて、町民も楽しめ全国にもアピールできる企画としたい。	☆和紙の里通りのイベントは、個々の施設の特色を活かすとともに、町の行事や祭りを組み合わせて、町民も楽しめ全国にもアピールできる企画としたい。	⑬和紙の里通りのイベントは、個々の施設を最大限活用し、人々の生活文化の中で息づいてきた和紙をテーマに未来を模索したい。
・卯立の工芸館の障子紙の張替えをイベントにする。 ・喫茶店においてあかり展を開催する。 ・イベントの企画により観光客を集める。	○和紙の里通りの個々の施設で様々なイベントの同時開催。	●和紙の里通りを中心としたイベントに個々の施設の特色を活かすとともに、町の行事や祭りを組み合わせて、町民も楽しめ全国にもアピールできる企画としたい。	☆和紙は、人々の生活文化の中で息づいてきたものであり、今日の暮らしの中や通過儀礼の中で新たな和紙の登場の場を模索すべきである。	
・和紙と年中行事・祭り。 ・和紙供養をイベントとして定着させる。	○和紙と年中行事・祭りを結びつけるようなイベントの企画。	●豊かな生活を求めるようになった今日、暮らしの中や通過儀礼の中における和紙の普及を図る教室を開催する。	●和紙を使って「包む」という行為から生まれる文化、和紙の扱い方や利用による生活文化を見直す。	
・和紙のラッピング教室。 ・折り紙・押し絵教室。 ・暮らしの中の和紙。	○暮らしの中へ和紙の普及を図る教室の開催。			
・和紙と通過儀礼。 ・全て紙製の正月飾り(最近の傾向)。	○通過儀礼の中における和紙市場の拡大を図る。			
・和紙を使ったボトルや菓子包みの研究開発・新製品開発。 ・和紙を使った調理(紙鍋・華書焼・紙蓋)の研究開発。	○和紙を使った調理や食品のラッピングについて研究開発する。			
・折形(包み)教室の開催。 ・和とじ教室開催。	○和紙を使った包みや和とじの文化を見直したい。			
・和紙を守る姿勢から攻めの姿勢へ転じたい。				

おわりに

本稿のまとめとして、問題解決・課題対応のための具体的提案内容について紹介したい。

以上 13 の論点は、さらに以下の 5 つに集約される。

- I) 産業文化の創造 (論点①)
- II) 産業観光とは (論点②, ③, ④)
- III) 産業観光の新たな戦略 (論点⑤, ⑥, ⑦)
- IV) 産地の原動力 (論点⑧, ⑨, ⑩)
- V) 和紙の里通りの再活性化 (論点⑪, ⑫, ⑬)

I) は今後の理念・目標に相当するものであり、いわば問題解決・課題対応の「頭」の部分である。

具体的なポイントとしては、次の 3 つがあげられる。

- 質の高い新たな産業文化圏を構築する。
- 町民の結束による町おこしを実践する。
- まちづくり町民大学をつくる。

II) は今立町における産業観光の基本的考え方に相当するものであり、いわば問題解決・課題対応の「心」の部分である。具体的なポイントとしては、次の 3 つがあげられる。

- 今立町の生業・営為の中に都会人を受け入れる。
- 和紙の里に育つグリーンツーリズムの動きを活かす。

○個人客に絞った個性的な産業観光を目指す。

Ⅲ)は差別的優位性発揮の戦略に相当するものであり、いわば問題解決・課題対応の「手」の部分である。具体的なポイントとしては、次の3つがあげられる。

○越前4産地が結束し、宿泊型の産業観光を目指す。

○お年寄りに優しい産業観光地を目指す。

○食の安全に配慮した地元食材主体の料理を提供する。

Ⅳ)は今立町の産業観光がよって立つ産地の足腰を強くするエンジンに相当するものであり、いわば問題解決・課題対応の「足」の部分である。具体的なポイントとしては、次の3つがあげられる。

○全国の和紙産地の頂点を目指す。

○研究開発型の企業や意欲的な問屋の取組みが支えである。

○消費者対応や地産地消の面で先駆けとなる。

Ⅴ)は今立町の観光の再生（再構築）すなわち既存集積のリニューアルに相当するものであり、いわば問題解決・課題対応の「体」の部分である。具体的なポイントとしては、次の3つがあげられる。

○和紙を通した工芸文化の発信基地となる。

○和紙の里通りを核に、町全体が生活文化博物館の発想。

○今日の暮らしや通過儀礼の中に和紙の登場の場を提供する。

このように見てくると、福井県総務部政策推進課ふくいブランド推進室が提唱する「ふくいブランド」と共通するところが多い。すなわち、ふくいブランドは「水」、「癒し」、「美味」、「匠」、「歴史」、「暮らし」であるが、「水」は和紙および和紙の里通りと、「癒し」はグリーンツーリズムの発想に、「美味」は農産物の提供、そば、越前料理と、「匠」は手漉きの味わい、越前和紙そのものと、「歴史」は言うに及ばず、「暮らし」は和紙を中心とした生活提案にそれぞれと関係している。このようにみてくると、今立町には既に「和紙の里を愛する会」、「そば愛好会」、「有機農法研究会」等が産業観光の芽として育っており、他地

域に比べ一歩も二歩も先んじている。今後の取り組みもこれらがリーダーシップをとる必要がある。

もとより、一つのテコで地域づくりが完結することはいえないが、地場の工芸産業の振興は、単に工芸分野の経済的発展にとどまるものではなく、まちづくりや産業観光などの地域づくりに必要な多くの要因と密接な関係を持っている。その関係をより強め得ることが明らかにできれば、地域づくりに必要な広汎な人の理解と協力が得られることにつながろう。

参考文献

1. 今立町教育委員会編「今立町誌」今立町教育委員会 1982.3
2. 中小企業庁計画部計画課監修「新しい地場産業の創造—新地場産業集積圏構想—」東洋法規出版 1986.1
3. 「商工会地域における特産品の市場開拓に関する調査」全国商工会連合会 1986.3
4. 石井廣志:「地域資源の活用③ むらおこしの現場から」全国商工会連合会「商工会」,325 1986.8
5. 「商工会地域における新特産品開発の手法に関する調査」全国商工会連合会 1987.3
6. 石井廣志:「地域特産品の現状と市場開拓の視点」全国中小企業団体中央会「中小企業と組合」1987.7
7. 石井廣志:「地域再生への試み④ 益子町の明日を拓く」全国商工会連合会「商工会」,337 1987.8
8. 「地域個性化の展開」福井県商工会連合会 1989.3
9. 「越前和紙産地診断報告書」福井県中小企業課 1989.3
10. 「報告書」活力ある地域づくりに関する懇話会 1989.12
11. 「地域個性化への展開」福井県商工会連合会 1990.3
12. 「今立町勢要覧」福井県今立郡今立町 1991.
13. 石井廣志:「工芸産業地域における産地等企業集積の実態調査」東京家政学院大学紀要 第33号 P185～198 1993.7
14. 奥間圭子・石井廣志:「観光消費の風間浦経済に及ぼす影響」東京家政学院大学紀要 第35号 P139～152 1995.7
15. 石井廣志:「地域産品の開発と農業高校・水産高校等—連携・協力のための新たな視点—」東京家政学院大学紀要 第35号 P153～174 1995.7
16. 石井廣志・奥間圭子:「リゾート施設における経済的

- 波及効果推計－「マリニピアくろい」を対象に」東京家政学院大学紀要 第36号 P201～210 1996.7
17. 「アイデア発信今立」今立町商工会 1996.10
18. 『31世紀を見つめる「まちおこし」』今立町商工会 1997.3
19. 「試作品に関する市場調査と観光ニーズに関する報告書」今立町商工会 1997.3
20. 「今立町工芸の里〈越前和紙〉整備計画」今立町工芸の里〈越前和紙〉推進協議会 1998.3
21. 石井廣志・奥間圭子:「宮崎県地域中小企業振興ビジョン」東京家政学院大学紀要 第38号 P147～166 1998.7
22. 石井廣志・奥間圭子:「特産品としてのさつまいも関連商品の市場流通－全国動向と川越市の試み－」東京家政学院大学紀要 第39号 P37～54 1999.7
23. 石井廣志:『‘99むらおこし白書－16年目を迎えたむらおこし事業「再びむらおこしの現場から」』全国商工会連合会 1999.11
24. 「今立町勢要覧」福井県今立郡今立町 2000.3
25. 第3セクター研究学会編著「地域経営の革新と創造－分権時代の第3セクター－」透土社 2000.5
26. 石井廣志・奥間圭子:「個性的なむらおこしの戦略」東京家政学院大学紀要 第41号 P1～7 2001.7
27. 佐藤はるな・石井廣志:「個性的なまちづくりの戦略」東京家政学院大学紀要 第41号 P9～16 2001.7
28. 「いまだて21世紀ビジョン(第4次今立町総合計画)」福井県今立町 2002.3
29. 石井廣志:「工芸産業地域における産地等企業集積の実態調査(第2報)」東京家政学院大学紀要 第43号 P127～146 2003.8
30. 石井廣志:「観光地の再生(第1報)」東京家政学院大学紀要 第45号 P19～31 2005.8
-
- (2006.3.15 受付 2006.5.17 受理)

